

## 「たまな地域高校生ピースボランティア」事業計画案

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷和生

### 1 事業趣旨

令和6年10月8日に日本原水爆被爆者団体協議会の2024年ノーベル平和賞受賞に際し、改めて「ノーモア・ヒバクシャ」「核兵器廃絶」の声に耳を傾ける機会としたい。地元玉名在住の被爆者浦田藤枝さんの証言を聞き、原爆被害と核兵器の脅威、核廃絶を胸に刻む機会としたい。

また、紙芝居等の上演等に関わる中で、次世代の高校生が平和の継続のため「何を学び、継承するのか」を考える機会としたい。

### 2 事業枠組み、内容

#### (1) 「長崎被爆体験証言会と紙芝居」への参加と運営補助

##### ア 長崎被爆体験証言会と紙芝居

- 証言会 「私の長崎被爆体験 ～生き抜いた80年」
- 証言者 浦田藤枝さん ※長崎純心高等学校時に被爆
- 期 日 令和7（2025）年8月23日（土）  
開場：午後1時 開演1時30分～4時頃
- 会 場 玉名市立歴史博物館「こころピア」  
レクチャーホール 定員60名
- 参加日 無 料 ※常設・企画展入館は有料

##### イ 当日運営等

- 紙芝居上映「長崎原爆被害のおはなし」  
製作者越智咲耶子さん（万人署名活動のグループ員OB）と協力して上演
- ワークショップ「平和の紙風船をつくろう」の運営補助
- 紙風船折りの手伝い、平和のメッセージ書きの手伝い、平和のメッセージボード作成



浦田藤枝さん証言様子  
令和6年10月8日

#### (2) 北稜高校校内での長崎被爆体験証言会等の開催検討

- 校内で「長崎被爆体験証言会」「日本被団協ノーベル平和賞受賞の講話会」を開催の検討
- 浦田さん証言紙芝居については、熊本被爆二世・三世の会及び製作者越智さん了解のもと、上演しやすいように新規パワポ作成、語りの改訂等の検討

#### (3) その他

- 1945年5月13日大浜飛行場空襲体験者中嶋征子さんの紙芝居「大浜空襲とつながる命（仮）」の製作

### 3 日程等

- ① 済み 一回目 5月27日（火）16時から  
 事業計画について、担当者による意見交換
- ② 済み 二回目 6月23日（月）14:45～15:45頃  
管理職説明、北稜高校生徒有志の参加体制、全体計画等での協議
- ③ 三回目 7月14日（月）15時30分から17時頃 ※実施計画案作製  
 浦田藤枝さんの長崎被爆体験のお話し、紙芝居の紹介、生徒との交流 他  
 場所 校内会議室等  
 参加者・関係者 北稜高校生徒有志・担当職員、くまもと戦跡ネット事務局
- ④ 四回目 7月末～8月初旬の平日 午前10時頃  
 玉名市立歴史博物館「戦後80年 たまな・くまもとの戦争遺産」展の見学  
 くまもと戦跡ネット事務局員・玉名市博職員からの解説
- ⑤ [予行] ワークショップ 8/6（水）9:30～ 玉名ルーテル学童クラブ
- ⑥ 五回目 8月23日（土）13時から ※当日  
 参加は、五名程度で運営補助。前日まで、各種の事前準備等
- ⑦ 六回目 9月上旬～下旬  
 北稜高校校内での「長崎被爆体験証言会等」の開催の検討
- ⑧ 七回目 10月以降  
 今後の活動での意見交換、協議

### 4 その他

- 参加する生徒へは、ボランティア証明「たまな地域高校生ピースボランティア参加証」を、くまもと戦跡ネットもしくは玉名市教育長名で発行する。
- 参加生徒には、交通費程度のクオカード等を準備する。

上小田の三宮神社附近から見た長崎の原子爆弾  
(昭和20年8月9日) の原子雲

## 長崎被爆体験証言会と紙芝居

浦田藤枝さん証言

「私の長崎被爆体験～生き抜いた80年」



故・大宮武恵さん(玉名市上小田)作の玉名から見た長崎原爆雲の様子



1942年の浦田藤枝さん(中央)



証言者「浦田藤枝さん」

令和7(2025)年

8.23(土)

開場 12:30  
開会 13:00

玉名市立歴史博物館ころろピア レクチャーホール  
熊本県玉名市岩崎117

参加費無料 申込不要

内容

- (1) 開会・日程説明他
- (2) 講話「ノーベル平和賞の受賞と熊本県被爆協の活動」  
2世部会共同代表 原田俊二さん(熊本市北区植木町)
- (3) 紙芝居上映「長崎原爆被害のおはなし」  
越智咲耶子さん(熊本市中央区・万人署名活動グループ員)  
玉名市内高校生「ピースボランティア(仮)」
- (4) 証言会「私の長崎被爆体験～生き抜いた80年」  
浦田藤枝さん(玉名市岱明町)  
※長崎純心高等女学校生徒の時、家族5人を亡くした証言
- (5) 休息
- (6) 戦時資料貸出キット第2弾「子どもたちが見た戦争II」の紹介  
くまもと戦争戦跡・文化遺産ネットワーク
- (7) ワークショップ「平和の紙風船をつくろう」
- (8) 閉会



紙芝居「長崎原爆被害のおはなし」  
熊本県被爆2世・3世の会 提供

くまもと戦争戦跡・文化遺産ネットワーク

「戦後80年」会設立から20周年  
「くまもとの戦争戦跡を未来につたえる」事業

共催  
企画

玉名市立歴史博物館ころろピア

「戦後80年たまな・くまもと  
の戦争遺産～次世代への継承～」事業



連絡先

□玉名市立歴史博物館ころろピア 田中、田熊  
□くまもと戦争戦跡・文化遺産ネットワーク 本田 涼子  
□ 同 代表 高谷 和生  
〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5  
高谷個人携帯 090-1513-5528  
高谷Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp  
HP URL <http://www.kumamoto-senseki.net/>

# 被爆者

玉名市の  
浦田さん

# の体験 紙芝居に

湧心館高の越智さん「目を背けない」



越智咲耶子さん(右)ら高校生が作った紙芝居を手にする浦田藤枝さん(左) 6日、熊本市中央区

被爆者が高齢化し、減っていく中、記憶の継承は大きな課題だ。核兵器廃絶に向けて活動する熊本県内の高校生らが、長崎県で被爆した玉名市の浦田藤枝さん(94)の体験を基に紙芝居を作った。絵と脚本を担ったのは湧心館高3年の越智咲耶子さん。深く悩みながら被爆者の心情を表現し、「私たちは被爆者の声を直接聞ける最後の世代。思いを真摯に受け止めて心のつながりを大事にしたい」と思いをかみしめる。

## ナガサキの思い

— 戦後79年

原爆投下直後の変わり果てた街、家族の遺体、生き残った被爆者への偏見や差別…。紙芝居は6日、熊本市であった熊本県原爆死没者慰霊式典で上演された。

15歳の浦田さんが目の当たりにした惨状や苦しみを描き、次世代に託す平和への思いを24枚の絵でつづった。壇上で見守った浦田さんは「生きた証を残してもらった」と涙を流した。

越智さんは1月、紙芝居作りの仲間たちと浦田さんの自宅を訪ね、原爆で弟妹4人と祖母を失った体験を約2時間かけて聞いた。

やけどを負った被爆者の体は「トマトの皮がむけるようにじゅくじゅくとしていた」と聞いた。「怖い」と感じたが、「あなたたちは私たちの希望」と言われ、「目を背けてはいけない」と思った。紙芝居の水彩画を描く際はオレンジ色を混ぜるなど工夫し、長崎原爆資料館やインターネットで探した写真も参考にした。

脚本作りでは「被爆者の心情を理解するのに思い悩んだ」と打ち明ける。最初の脚本は悲しみや恐怖を想像して書いたが、浦田さんに見せると、感情に関する表現の多くは削除された。被

爆直後は感情を超えて何も感じなかったから」と後に伝えられた。

黒い塊になった妹の遺体が母親に抱き締められてぼろぼろと崩れ、それを見た浦田さんが灰をかき分けて他の家族を探す場面では、「必死に」の一語が書き加えられた。

「浦田さんが絶望感の中でぼうぜんとしていたと解釈していたが、言葉が加わり、家族が失われていく大きな焦りと苦しみがあったと分かった」

浦田さんが学徒動員で国のために働く喜びや誇りを感じて魚雷の部品を造っていた場面や、米軍の兵士が笑いながら機銃掃射を行った場面は、特に強く印象に残った。

「当時の人は戦争で人を殺すことが正義だと刷り込まれ、誤った価値観だと気づかなかつた。戦争を肯定するような考えを持たないための教育が重要。それが現代への教訓だと思う」

6日の式典で、浦田さんは「この高校生たちが世の中を築いていく。平和のために応援してください」と参列者に呼びかけた。一方で「まだまだ伝えたいことがある」と話し、越智さんに「また遊びに来てほしい笑みかけた」。

「被爆者は私たちの想像が及ばないほどの苦しみを抱えてきた。それでも被爆者の心情を理解しようとする意思を持ち続け、これからも話を聞きたい」

記憶の継承のために「きょうはぼろぼろだ」。高3の夏に誓った。(東晋晃)

### 被団協にノーベル賞

核兵器の廃絶と平和な世界の実現をめざす  
高校生1万人署名

核廃絶 佐藤

熊本日新聞 号外



上：「被爆者の体験紙芝居に」 2024年10月8日記事  
下：「被団協にノーベル賞」10月8日 「核減っていない 人類への警告」10月24日県被団協